

Mt. Victoria Project

ふろタン通史 其の壱 **(前史の記録～2013.9)**

NPO法人 ふろんていあタウン工房



1973年3月16日 日本住宅公団(現UR都市機構)ワンダーフォーゲル同好会発足

「日本のニュータウン開発」に、創成期から携わってきた
日本住宅公団の「ワンダーフォーゲル同好会」が
設立40周年記念事業として2013年3月
ミャンマーの仏教遺跡のまちバガンの西方チン州のナマタン国立公園にある
ビクトリア山(3053m)への遠征調査登山を実施
これがきっかけで「ふるんていあタウン工房」の
「ビクトリア山プロジェクト」がスタートします

ワンゲル同好会発祥の地「多摩ニュータウン」から富士山を望む

今までのワンゲル同好会の海外遠征記念登山

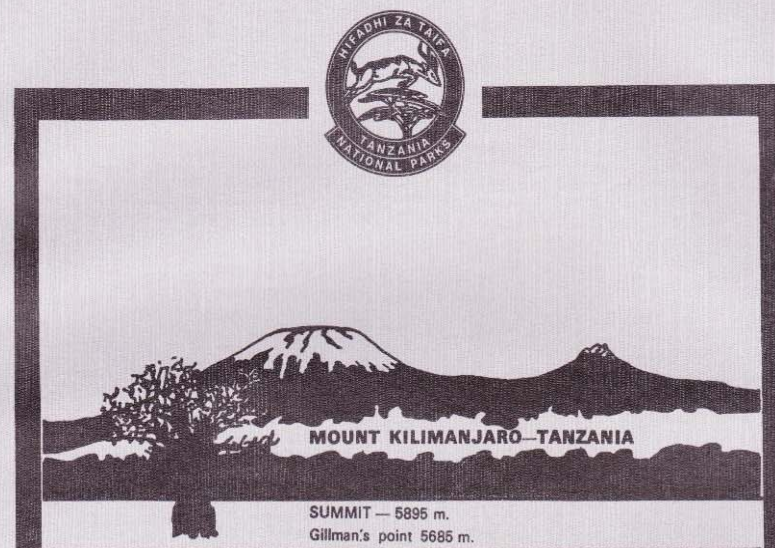
設立20周年 「キリマンジャロ」	1993.12.25～94.1.8	7名
設立35周年 「玉山」	2009.7.29 ～ 8.3	7名
設立40周年 (第1弾)「ビクトリア山」	2013.3.25～31	7名
(第2弾)「モンブラン」(先発隊)	2013.7.19～27	3名
(後発隊)	2013.8.9～17	1名



「ワンゲル同好会」スタート時のマーク

現在のマーク

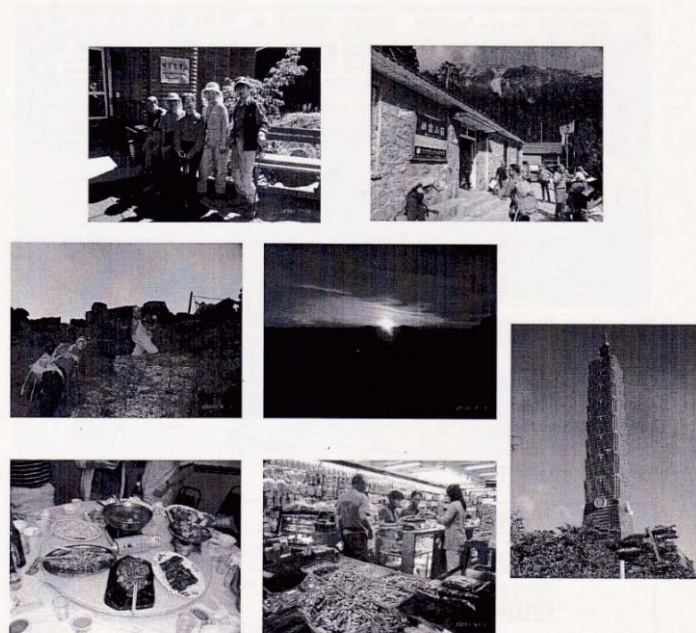
設立20周年記念 「キリマンジャロ山」(5895M)



キリマンジャロ山遠征記録

住宅・都市整備公団
ワンダーフォーゲル同好会
創立20周年記念事業

設立35周年記念 「台湾・玉山」(3952M)

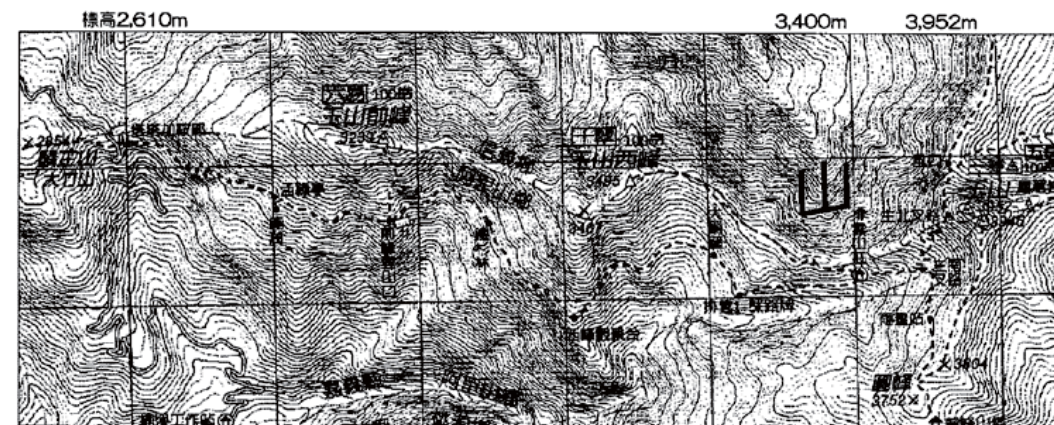


台湾玉山遠征記録

UR都市機構
ワンダーフォーゲル同好会
創立 35 周年記念事業



■ 玉山登山ルートとコースタイム



設立40周年記念(第1弾) 「ビクトリア山」(3053M)

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 910号:平成25年4月15日

□ 3月々例 Wanderung 報告

40周年記念事業「MT.VICTORIA PROJECT」

ミャンマー・ビクトリア山・第1次調査登山

「飯能の登山道づくりの次はミャンマーの山小屋づくり」と呼びかけていましたが、龍崖山公園が完成し、飯能の地区の事業完了記念式典が行われた3月24日の翌日に出発するというめぐり合わせになりました。山小屋づくりは時間がかかりそう

なので息子二人を同行させたら、江頭さんにはお孫さん二人が随行、記念事業にふさわしい多世代プロジェクトを予感させるスタートになりました。

日程 ; 2013年3月25日(月)～31日(日)

メンバー ; 室井+3(惟知・斐呂・伊斗子)

江頭+2(一馬・猪川洸太郎)

コースタイム ;

3/25 13:55 発の大韓航空で成田発、ソウル(仁川)経由でヤンゴン着 22:45 日本とミャンマーは時差2時間半なので現地時間では26日1:15 ホテルで仮眠 (以下現地時間で表示)

3/26 4:30 ホテル発 6:30 発のヤンゴン航空の国内便でバガン(ニャンウー空港)着 8:00 パジェロの中古車3台に分乗し陸路(ほとんど悪路)8時間の旅チン州へ向かう。カンベレッ村とのほぼ中間点にあるマグエ管区アイジー村の食堂で昼食。我々のビクトリア登山のベースであるカンベレッ村のパインウッドビラ着 16:00 自家発電の電灯は10時消灯



設立40周年記念海外遠征登山(第2弾) 「モンブラン」(4810M)



都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 917 :平成25年8月8日

□ UR-WV 40周年記念事業

◇ヨーロッパアルプス最高峰

『モンブラン登頂 (4810m)』(先発隊 9日間)

先発隊

■日 程 平成25年7月19日(金)～27日(土)9日間

■参加者 瀬川基之、牛久保亮一、牛久保悦子

後発隊

■日 程 平成25年8月9日(金)～17日(土)9日間

■参加者 阿久津賀央

今回のモンブラン参加者は4名。仕事等の都合上、先発隊、後発隊の2隊に分散して実施することにした。

このメモは先発隊に加わった牛久保亮一の記録である。

「モンブラン登山」

1日目7月22日 朝 7:25 サン・ジェルベからケーブルでモンブラン登山口ニ・デーグル(標高 2372m)へ。8:30 登山開始。急な岩稜の道をジグザグに登る。聞いていたとおりかなりの歩行スピードだ。10:20 テート・ルース小屋(標高 3172m)。ここまででかなり疲れた。大雪渓手前でアイゼンを着け、ガイドとアンザイレンし先ずはこの大雪渓をトラバース。左上から雪渓の上を落石が音もなく落ちてくる。その数の多いのには驚いた。さらに岩稜を越え滑落事故の多いクールワールの雪渓をトラバース。途中水が流れていて前後の凍結には注意。

2013年3月25～31日 ビクトリア山第1次調査

Mt. Victoria Projectはここからスタートします。



ビクトリア山登山道調査； 花と緑の山の環境を守り育てるためのルールづくり、自然を愛する多くの旅行者をどのように迎え入れ、 緑の保全・登山道の改良をどのように進めるか



カンペレ村生活調査；

山と共に生きる山麓の村の生活を向上させる村おこしへの取り組みを、ミャンマーの人たちと一緒にどのように進めるか





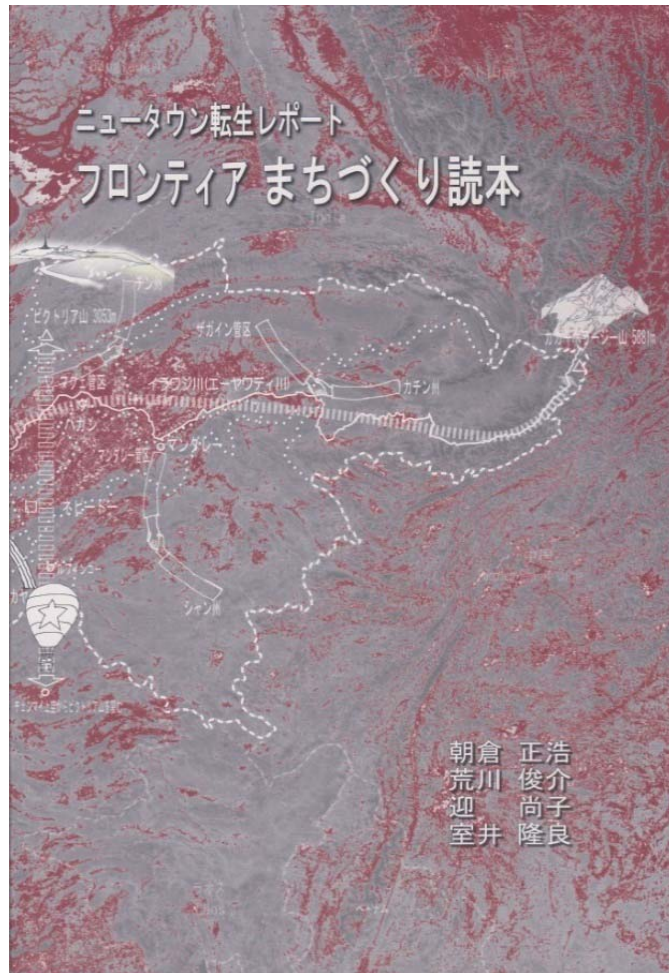
登山口で、「JICA草の根技術調査」の
安田さん(アース・ウォッチ・ジャパン)と



日本ミャンマー協会ヤンゴン事務所のティセインさん
とガイドのウィメンティさん

2014年2月22日 「フロンティアまちづくり読本」を発刊

第1次調査から帰国後、「ビクトリア山プロジェクト」のロードマップ(行程表)などを載せた「フロンティアまちづくり読本」を出版しました。



2014.2

ニュータウン転生 フロンティアまちづくり読本

プロローグ ーアジア最後のフロンティアー

I. 第1ステージ

国土利用計画年表(前半)

II. 第2ステージ

国土利用計画年表(後半)

III. ニュータウン転生

ビルマの縦軸構想図

エピローグ ーフロンティアまちづくりー

「ビクトリア山プロジェクト」ロードマップ(行程表)

〔STAGE I -1 ナマタン国立公園事務所に協力〕

ナマタン国立公園内のビクトリア山と山麓地域一帯の自然環境を保全し、ビクトリア山の森を守り育てるルールづくりと、環境整備計画づくりに取り組みます。

〔STAGE I -2 日本の旅行社と連携〕

ボランティア活動による登山道整備や、自然教室での体験学習などのメニューを取り入れた新しい形態のトレッキングツアーを企画し、村の人たちとの交流を深めてビクトリア山を守り育てるルールの周知を図るとともに、村おこし技術の掘り起こしに取り組みます。

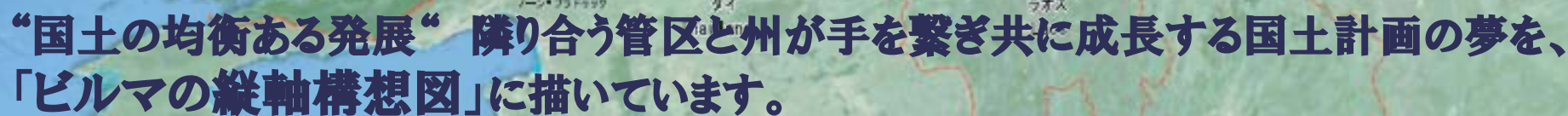
〔STAGE II 生活の向上を目指す村おこし〕

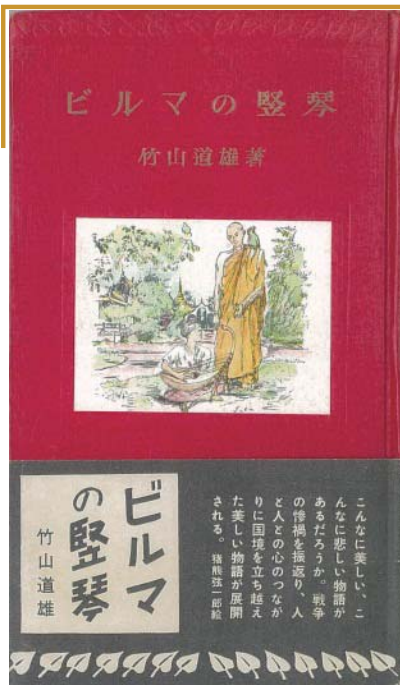
自然を愛する多くの旅行者を迎え入れて、ビクトリア山の魅力を高める新たな形態の観光産業の振興を図り、それと連携する地域産業の育成・村の生活の向上を目指します。

〔STAGE III 友好交流拠点「山小屋」づくり〕

「ビクトリア山プロジェクト」の参考になる活動を行っている日本の町・村との交流活動を進め、日緬友好交流の拠点施設づくりを計画、ビクトリア山の森を守り育てる持続的な活動を行う、「ビクトリア山・山小屋」構想の実現を目指します。

「ビルマの縦軸」構想図





1952年 中央公論社
ともだち・シリーズ・2

「フロンティアまちづくり読本」は、1960年代から相次いでスタートした日本のニュータウンの推移を、「多摩ニュータウン」と「筑波研究学園都市」の二つのニュータウンを中心に「全国総合開発計画」の変遷に重ね合わせてクロス分析しまとめたレポートです。

1955年(戦後10年目)日本住宅公団設立

1956年 第1号団地(金岡団地・稲毛団地)

経済白書が「もはや戦後ではない」と謳い日本が国連加盟した年
市川崑監督の旧作の「ビルマの豎琴」が上映された年

そして1974年の最初の「全総」が掲げた基本目標は、「国土の均衡ある発展」でした。

「フロンティアまちづくり読本」を出版後、NPO法人設立に向けての取り組みが始まります。

ここからは、「ふろんていあタウン工房」の設立に繋がる「前史の時代」のビクトリア山プロジェクト活動のあゆみについて、**ワングル同好会の機関紙「渡り鳥通信」**で述べていきます。

2011年11月19日「飯能・自然の回廊」探索

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 878号 平成23年11月25日

□ 11月特別企画：飯能自然回廊の探索

「秋雨の中、飯能自然回廊を探索しました。」

- 実施日：平成23年11月19日(土)
- 参加者：瀬川・室井・鶴見・石原・高田・朝倉 計6名
- コース：飯能駅 10:00→あさひ山 11:00→龍崖山 13:30→八耳堂 14:00(昼食)→
吾妻峡 15:00→能仁寺→市街地/団子屋(休憩)→東・飯能駅 16:00(解散)

○序章：飯能美杉台と第2地区の間に「あさひ山公園」が今年春にオープンした。

- 今では遠く富士山、筑波山や東京スカイツリーまで展望できる公園として美杉台で一番の人気スポットになっている。背後(北側)には飯能らしい山が連なってハイキングコースも整備されているが、ハイカーはまだ少ない。昔「朝日山」や大河原「龍崖山」は地元で信仰的な山として祀られて初日の出には地元の方も登るなど往来もあったらしい。
- ・ 今回の企画は、造成中の大河原「龍崖山」と「あさひ山」を結ぶハイキングコースを作ろうと、当時担当課長だった室井さんの呼びかけで、住民である高田(現在地区担当)と朝倉が加わって下見調査などしながらの登山道探索の一日企画であった。

〈参考〉 <http://www.imaec.co.jp/column/2011/09/>

○雨のスタート

- ・ 数日前から降雨確率60%、当然中止の案内すべきを、幹事M、T両名の「多少の雨だったら決行だよ」の強い一声で、直前に「有志参加」に修正。
- ・ 予想どおりの強者6名が参加。朝10時飯能駅から雨ガッパを着込んでの行進である。逆ルートで初めに美杉台北側から登るハイキングコースまで市街地を抜ける。約30分で「あさひ山」に到着。小雨の中だが家族連れが数組登ってきた。(写真「あさひ山」→)



「飯能・自然の回廊」とは？

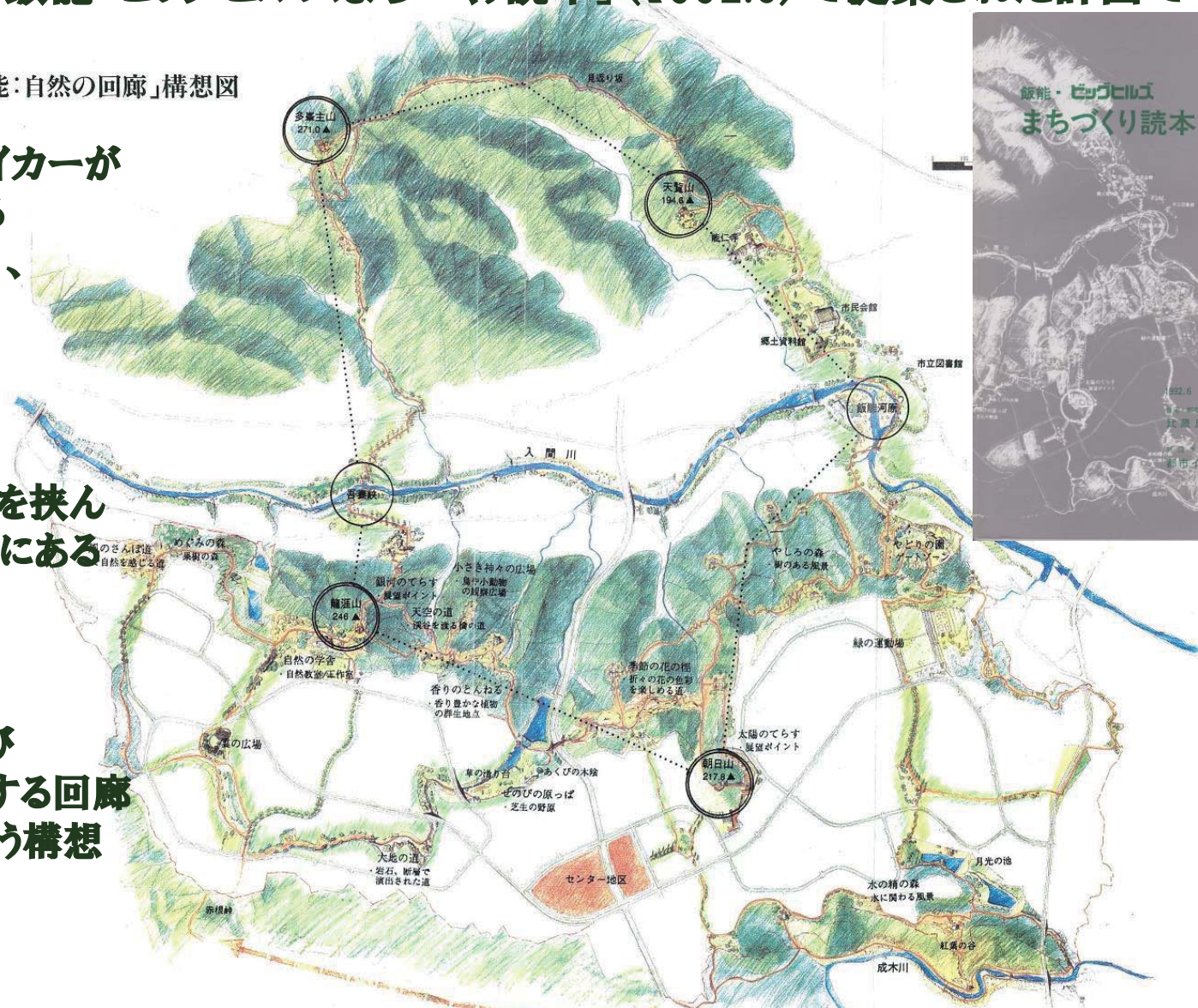
「飯能・ビッグヒルズまちづくり読本」(1992.6)で提案された計画です。

「飯能・自然の回廊」構想図

古くから多くのハイカーが
訪れ親しまれている
天覧山と多峯主山、

二つの山と入間川を挟んで
対峙する丘陵地にある
朝日山と龍崖山、

四つのピークを結び
飯能のまちを眺望する回廊
を誕生させようという構想
です。



1990年代ウォーターフロント開発が脚光を浴びていた時代、郊外丘陵地でのグリーンフロント環境を生かしたライフスタイルの実現を目指そうとしたレポート

東日本大震災の日の飯能のローカル紙が「飯能・自然の回廊」のピーク朝日山を取り込んだ「あさひ山展望公園」の完成を伝えています。

広々のどかな新名所

あさひ山 展望公園 美杉台中生が整備

飯能市美杉台に、広々とした敷地から絶景が望める「あさひ山展望公園」が、4月24日に開園する。これに合わせ、美杉台中学校3年生が、自生していた樹木を加工したベンチの設置を手伝い、地域の新たな憩いの場となる公園の整備を着々と進めている。

美杉台中学校近く、西武バス飯能営業所北に開園するあさひ山展望公園は、標高200メートルにある、敷地面積約3万6000平方メートルの広々とした公園。天気がよければ富士山、

標高200^{メートル}の絶景

筑波山、東京スカイツリー、秩父山系、さいたま新都心などが望める。

園の入口など2か所にアケボノスギのシンボルツリーを植え、ほかにもツツジ、ザクロ、モミジなどのほか、美杉台中卒業生が記念樹として植えたヤマザクラ、コナラなども見られる。地元で見られる木や自生し

ていた木など、様々な樹木が植えられている。

敷地内には気軽に運動が楽しめる器具、東屋、トイレなどがあり、頂上には方位を示す石が設置されている。石に書かれた東西南北の文字は、昨年、美杉台中生が書いた書をもとにしたものだ。

同園は飯能市から基盤整備事業に伴う公園整備の要望を受け、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）が取得。昨年と今年の2か年計画で整備を進め、今年4月の開園を予定しているという。



ベンチにヤスリをかける美杉台中生ら

整備は美杉台中生も手伝い、今年8日は3年生が木製ベンチの設置を手伝い、ヤスリをかけた。このベンチは昨年、3年生らが2年生の時に、間伐した木を乾燥、専門業者が加工したものを組み立てたもので、48基中44基を生徒たちが手掛けている。ほかにも、2年生が開発の際に伐採した木を利用し、樹木にかける札を手作りし、木の名前を彫った。1年生が、伐採した木で果箱を手作りし、美術部の生徒のイラストをもとに製作した案内板も設置される予定だ。

2011年3月11日付「飯能文化新聞」

2012年2月26日「飯能・自然の回廊」探索(第2回)

「あさひ山」と「龍崖山」を結ぶ登山道整備



都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 884号 : 平成24年3月12日

□ 2月々例山行：飯能回廊探索(第2回)

見晴らしピークを「燧山(ひうちやま)」と命名

- 実施日：平成24年2月26日(日) 晴れ
- 参加者：瀬川、室井・惟知、高橋、朝倉、高田 計6名
- コース：飯能駅 10:05→八耳堂 10:50→龍崖山 11:10→燧山(昼食) 12:45→あさひ山 15:00→美杉台→飯能駅北口(反省会) 15:30→17:00(解散)

○ルートの修正

- ・前回11月の下見調査では、あさひ山から龍崖山へ最短ルート開拓を目指したが、県道横断は見通し悪く危険。北側迂回する既存ルートで横断し、美杉台側のルート開拓は不要とした。

○飯能駅をスタート

- ・当初予定日を1日遅延し、東京マラソン開催の日曜日のしたところ好天に恵まれた。飯能駅南口から一路龍崖山登山口の八耳堂へ歩く。
- ・ここで、入山準備、新人会員高橋氏の歓迎も兼ねるが、甘やかすことなく水の取水を指示。
- ・軍太利神社裏山を抜け龍崖山の登りに取り付くが、この急勾配登り坂はステップがないから結構キツイ。多分、奥武蔵界隈で伊豆ヶ岳の男坂に続く2番目にキツイ登りだろう。

○龍崖山山頂整備

- ・龍崖山につくと地元のボランティア約10名がチェソーを使って、龍崖山山頂周りを整備していた。東京スカイツリーも見える。すこぶる眺望が良くなっていた。



見晴らしピークを「燧山(ひうちやま)」と命名



2012年5月12日 開通した「飯能・自然の回廊」を歩く

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 888 号 :平成 24 年 5 月 18 日

□ 5月々例山行：飯能回廊 探索（第3回）

全参加者が新ルート（龍崖山～燧山～県道）を踏破！

- 実施日：平成 24 年 5 月 12 日（土）晴れ
- 参加者：安原昭子、岩本、山本、宮本*2、室井*2、牛久保、横山譲、鈴木俊明、鶴見、石原力、植木、新澤、高田、朝倉*2：計 17 名（男 11 名・女 6 名）
- コース：飯能駅 10:10→天覧山 10:50→多主峯山 11:30（昼食）→吾妻峡 13:10→龍崖山 13:50→燧山 14:10→あさひ山 15:30→美杉台 16:30（解散）→飯能駅北口（有志で反省会）

○スタート前・・・

- ・前回は、南側の新ルート開拓のみだったが、今回は入間川北側の天覧山～多主峯山も含めた飯能自然回廊の南北全ルートを歩く自然回廊/全通記念/企画である。参加者も関係者でもある現役メンバー（高田・植木・新澤）に事務所 OB（横山・鈴木・室井）と緑チーム（鶴見・石原）に地元（高田・朝倉）が参加。安原さんは 10 数年ぶりのワングル参加であった。

○飯能駅をスタート・・・

- ・駅南口からブラブラと市街地・寺・墓地を抜け、登山口からは 15 分程で天覧山山頂に到着した。コンクリート造の見晴らし台は 10 数名のハイカーが、南に奥武蔵の山並みと富士山はあいにく見えなかったが東京スカイツリーをぼんやりと東遠方に見ることができた。

○多主峯山で昼食・・・

- ・天覧山から多主峯山へは、「マムシに注意！」と「笛の音」に誘われて、一旦湿地帯に下り、常盤御前の「見返り坂」から山頂へと登り坂が続く。脇道を 10 数名トレッキングランナーに追い越され、標高 271m の山頂に到着。山頂には木製テーブル・簡易ベンチ数基と石墓があり、20 数名のハイカーが休憩・昼食中。我々も少し早目の昼食をとる。U+S 両氏は女学生 6 名に囲まれたベンチでの楽しい昼食となった。・・・⇒写真



天覧山の登山



多主峯山山頂で昼食



トレミファ橋は一列で！



楽しいベンチで昼食！



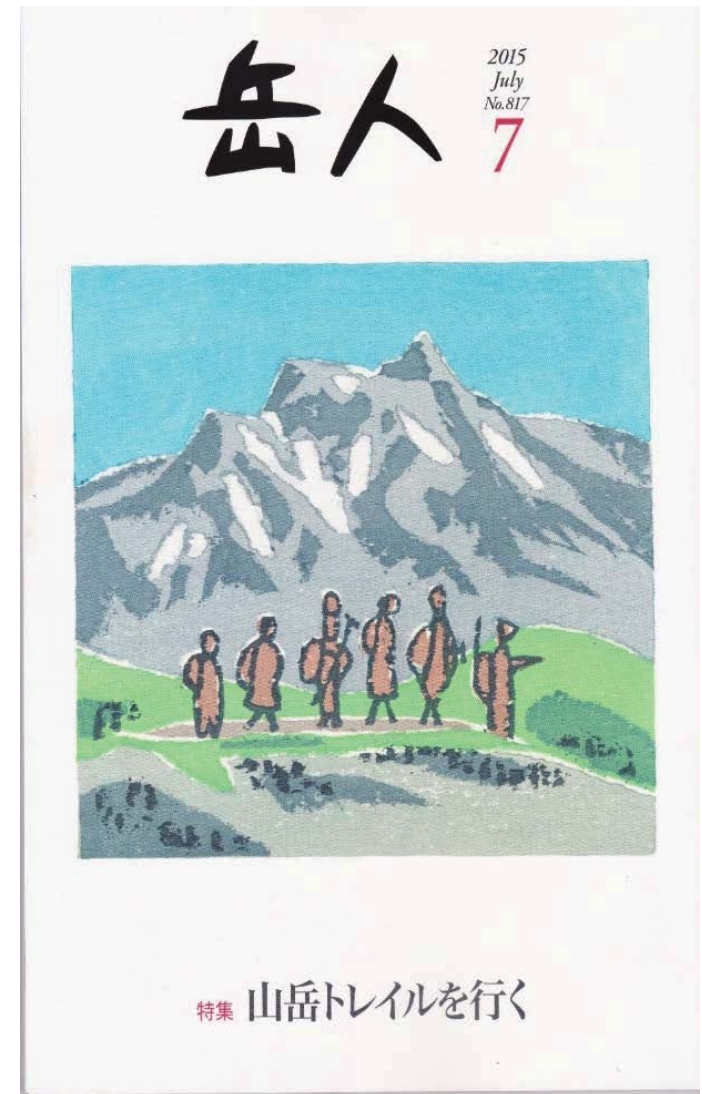
「飯能・自然の回廊」の4つのピーク



後日譚； ワンゲル同好会がスタート時からお世話になっている山の本、「岳人」の2015年7月号が「龍崖山」を取り上げて「燧山」の山名板について紹介し、「山と溪谷」9月号は、特集の[地図読みドリル]で「天覧山」を取り上げています。



燧山の山名板。裏のジョークは行ってのお楽しみ



地図を持って歩いてみよう!

「地図読みドリル」①

天覧山

(埼玉県飯能市)

⑤飯能市中央公園～①天覧山～
②多峯主山～⑦龍崖山～④大河原

アップダウンが少なく、なだらかな低山。最高点の多峯主山でも標高300m足らずと地図読み練習に最適だ。課題を解きながら歩いてみよう。
[最寄駅＝西武池袋線 飯能駅]
出版・解説＝田島利佳

課題1 左の地形図に南偏7度の磁北線を引こう。

課題2 スタート地点⑤から天覧山①の間までは、どれくらいの標高を登るか? また、何通りかのルートがあるが、それぞれどんなルートだろうか。文字が重なった部分にもよく注意して、特徴を説明しよう。

課題3 天覧山①から多峯主山②へは、a、bの2通りのルートがあるが、どちらのルートを通37 登り、下り、距離、方向の変化などに注目して、それぞれのルートの特徴を説明しよう。

課題4 多峯主山②から沢沿いの道を③に下山し、④を経て吾妻峠⑥へ。この間で、現在地を把握できる場所はどこか?

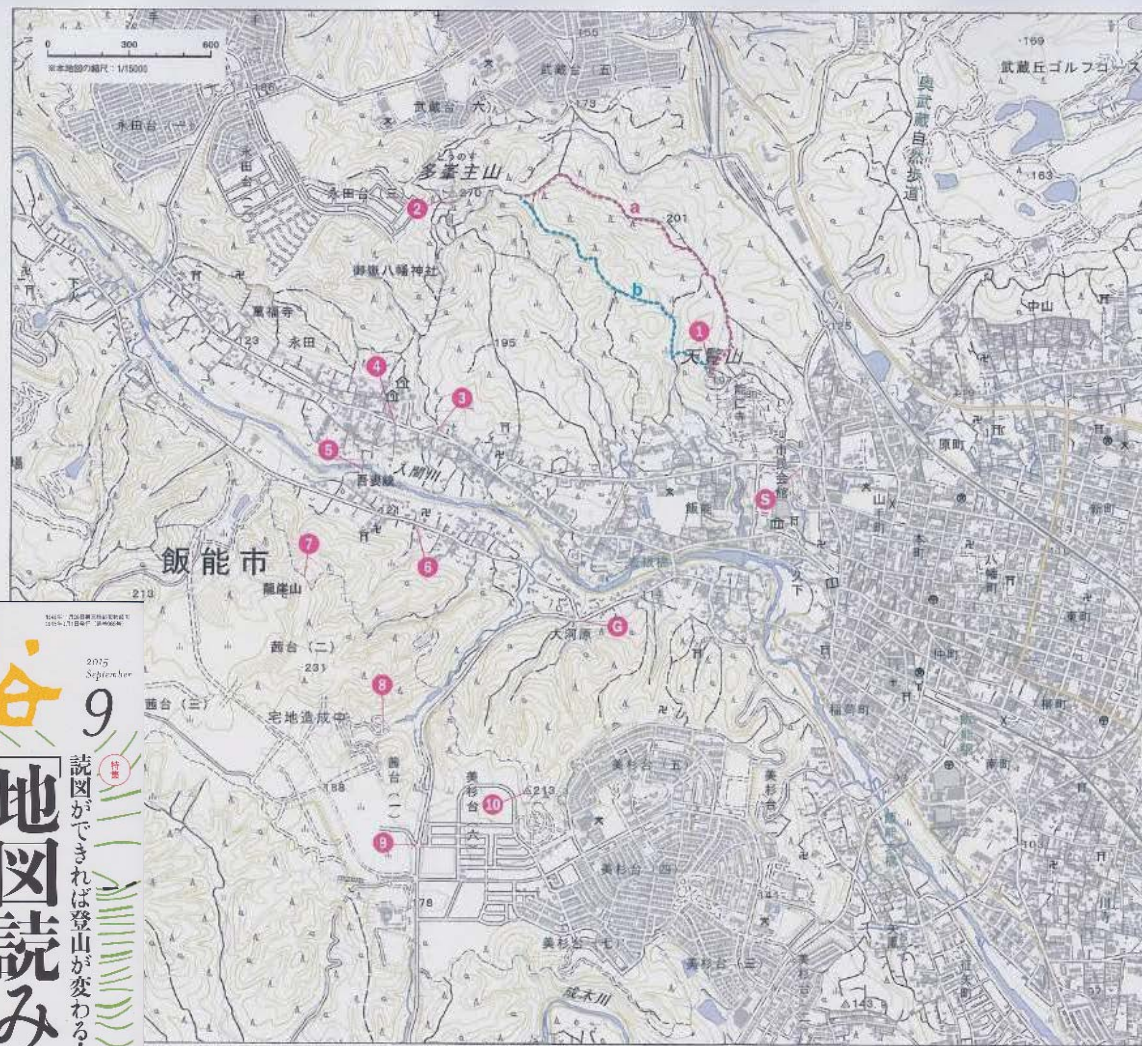
課題5 広い車道から、吾妻峠⑥に至る道へ入る地点③を、どのように特定すればよいだろうか。

課題6 吾妻峠⑥から龍崖山⑦は、地形図上では道が途中で終わっているが、③地点から登る登山道が整備されている。どんな道が通っているか、地図と周囲の地形を見ながら、道を地図に書き込んでみよう。

課題7 龍崖山⑦から龍崖山公園下⑧の間は、地形図に道は描かれていないが、登山道が整備されている。登山道がどんな地形を通っているか、歩きながら説明してみよう。

課題8 龍崖山公園下⑧からは東の大きな道へ出て、南へ登りながら⑨まで進む。宅地造成中でもあるので地図で描かれている道が正しいかわからない。⑨地点を特定するためにどうすればよいか。

課題9 213.3mピーク⑩からゴール地点の大河原④までは尾根道をたどる。一部、地形図では道が描かれていないが、ハイキング道が整備されている。コンパスで方向を確認し現在地を確認しながら進み、登山道がない部分のルートを描き加えてみよう。



※この地図は、国土地理院の承認を得て、開版発行の1:25,000地形図及び電子地図(25,000)を複製したものである。(承認番号 平27情補、第335号) ※この地図を複製する場合は、国土地理院の長の承認を得る必要があります。

2015 September

読図ができれば登山が変わる!

読図の力ギは等高線にアリ

一人でもできる、地図読みドリル

【第2特集】
シルバーウィーク満喫
秋の連休、縦走プラン

山と溪谷

地図読み

2013年9月28～29日 月例山行「御嶽山」



「御嶽山」は、悪天のため山麓のキャンプ場泊まりで終った前年の月例山行の再企画で、同じ9月の第4土曜日に実施しました。

そして翌2014年の第4土曜日9月27日に「御嶽山」は噴火しました。

都市機構ワングル同好会

渡り鳥通信



UR-WV No. 920 号:平成25年10月18日

□ 9月月例山行の報告

天候に恵まれ、最高の展望を満喫 『御嶽山 (3,063m)』

日程:平成25年9月28日(土)～29日(日)

参加者:江頭、室井、赤川、鶴見 計4人

1. 急登の連続

JR 高尾駅に集合して、赤川車で登山口を目指す。途中、コンビニで弁当を購入し、登山口である田の原駐車場で早めの昼食。

11:00 スタート。晴天で、既に頂上と山小屋が見える。登山口近くは緩やかだが、後は頂上までの一直線の急登の連続。足元には大きな石があり、歩きにくい道である。また、宗教の山だけあって、途中、大江権現、金剛童子などのポイントには、仏像などが祀られている。

14:20 大滝頂上奥社(2,936m)に到着。想像以上に立派な社殿。近くの斜面からは噴煙が上がり、硫黄の匂いも漂っている。さっそく大滝頂上山荘に宿泊を申し込む。本日の宿泊客は10名程度。我々4人で10畳の個室に案内され、余



田の原(登山口)



金剛童子(8合目)



大滝頂上奥社

ワンゲル50周年は何処へ行こうか！

三(三)角定規トレッキングツアー

ワンダーフォーゲル(渡り鳥)キミは何処の「自然」を目指して羽ばたくのか



ふろたん通史
其の巻
前史の時代

END